

仙台市科学館改修等における P F I 手法導入の検討について

平成 26 年度に、内閣府の支援制度を活用して、本市科学館の改修等における P F I 手法の導入可能性を調査した。調査結果は、平成 27 年 10 月 19 日付で内閣府から公表されたところであり、本調査の結果を踏まえ、当館への P F I 手法導入の検討を進めていきたいと考えている。

1 施設の現状と課題

仙台市科学館は、科学技術に関する知識の普及啓発を目的に設置された社会教育施設であるが、平成 2 年 5 月の竣工から築 25 年が経過し、建物・展示物の老朽化により、施設の大規模改修が必要な時期を迎えている。展示内容の陳腐化も進行しており、最新の科学技術に関する情報を求める利用者のニーズに十分に応えられなくなっている。また、施設の長寿命化、効果的・効率的な維持管理、財政負担の圧縮が求められている。

2 P F I 導入可能性調査実施の経緯

仙台市行財政改革プラン 2010〈中間見直し〉において、科学館について、学校教育活動への支援など事業の質を確保しながら、効果的・効率的な運営管理のため、指定管理者制度を導入するとともに、民間の資金やノウハウを幅広く活用し、効果的・効率的に施設の整備やサービスの提供を行っていくため、P F I 手法の導入の可能性について具体的に検討を行うこととしている。これに基づき、P F I 導入可能性調査を実施したところである。

3 P F I 導入可能性調査の結果

別紙のとおり

4 P F I 手法導入の検討

この調査において、本市の P F I 手法導入の判断基準（V F M が最低でも「3%以上かつ現在価値換算後 1 億円以上」）を満たす結果が得られていることから、今後は、アドバイザー業務委託等により、建物・設備の改修範囲や民間事業者を求めるサービス水準などの事業の枠組み及び V F M を精査し、P F I 手法の導入について検討を進めていきたいと考えている。